

令和8年度 第2回 中ノ町小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月23日（木） 13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所 中ノ町小学校 会議室1
- 3 会長挨拶
- 4 校長挨拶
- 5 出席委員 齋藤 誠、堀内 秀哲、木村 香織、鈴木 景子、鈴木 巧、瀧 幸仁、
山田 浩史、土屋 碧希
- 6 欠席委員 金原 佐知子、山下 直行
- 7 オブザーバー 堀内 信広（天竜協働センター）、岡安 智代（主任児童委員）
藤井 琴美（保護者）、坪井 梓（保護者）、仲塚 広恵（保護者）
- 8 学 校 左右田 千夏（校長）、河口 裕之（教頭）白鳥 直樹（CS担当教員）
他13名
- 9 傍聴者 なし
- 10 議長の選出 議長の選出について意見を求めたところ、他の議員より齋藤会長の名前が
あがり、全員意義なくこれを承認した。

11 熟 議

（1）CSについて（動画視聴）

「地域とともにある学校づくりⅡ～学校と地域のつながり～」

（2）「ゆるサポ」活動について（グループ協議）

12 会議録作成者 河口 裕之

13 会 議 記 録

○司会の教務から、委員総数10人中8人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

○「ゆるサポ」活動について（グループ協議）

グループ1

【成果】

教員・保護者・児童・地域の方々の繋がりが広がったという意見が出ました。授業参観以外の場面で子どもたちの様子を見てもらう機会ができ、ボランティアといえば「地域の方」というイメージが強かった中で保護者の参加も増え、教員との関係や人間関係の輪が広まりました。また、大人の目がたくさんあることで、子どもたちも安心して校外学習や学校活動に取り組むことができた点も良かったです。

【課題と改善案】

情報共有の課題：今年度は校外学習の直前に「ゆるサポ」をお願いするケースが何件ありました。今年度必要だった支援内容を記録して来年度・次年度へ引き継ぐことで、事前に余裕を持って依頼できるようになると考えています。

振り返りとPR：参加後の振り返りや活動をPRする場を作ることで、後継者や新しいサポーターを増やす繋がりにしたいです。

児童とサポーターの距離感：子どもたちがサポーターの方をあだ名で呼んだり、わがままを言

ったり、言葉遣いが悪くなったりする場面が見られました。いつ・誰が・何のために来てくださるのかを、教員から子どもたちへ事前に伝える必要があります。

教員・保護者間の連携：教員同士でサポーターの来校スケジュールを把握・共有することや、サポーター側も「どう子どもに接すればよいのか」迷わないよう、どのようなサポートが助かるかを事前に共有しておくことが大切だと感じました。

グループ 2

【成果】

先ほどのグループとほぼ同様ですが、私たちのグループでも肯定的な意見が多く「ゆるサポをやって良かった」という声が多数を占めました。地域に詳しい人材と繋がれたこと、教員のサポートが手薄な場面で助けてもらえたこと、そして多くの大人が関わることで安全面・精神面（安心感）の両方で良い循環が生まれている点などが挙げられます。また、今年度は保護者の木村さんがコーディネーターとして入ってくださったことで、コミュニティ・スクール（CS）会議の長年の課題であった「保護者の地域活動への参画」が進みました。木村さんが頻繁に来校し、直接顔を合わせて相談・依頼や急な変更にも柔軟に対応していただけたため、コーディネーターの役割の大きさを実感しました。

【課題】

参加の偏りと周知：低学年での参加は多いものの、高学年での参加が少なかったため、高学年保護者や地域住民へいかに周知・普及させていくかが課題です。

継続性：初年度である今年度の盛り上げりを、今後も持続・継続させていくための工夫が必要です。

グループ 3

【成果】

入学式場で木村さんが「ゆるサポ」の活動を紹介してくださったことで、参加者が大きく増えました。大人の目が増えたことで子どもたちも喜び、教員も大変助かりました。保護者にとっても、その場で子どもたちの日常の様子を直接確認できる点が良かったという意見がありました。

【課題】

費用面：連絡手段として使用しているLINEの有料プラン等、運営に関わるお金（費用）の問題が出てきています。

支援範囲の明確化：どこまでサポートに入ればよいのか、教員・保護者の双方で迷う部分がありました。

偏りの解消：学年によってサポーターの人数に偏りがある点が課題です。

個人情報の配慮：子どもたちの様子や個人情報の取り扱いについては、今後も慎重に気をつけていく必要があります。